

■徳川吉宗 江戸幕府8代将軍。〈享保の改革〉を推進して幕藩体制を再構築するも、〈享保大飢饉〉で挫折。
とくがわよしむね
堀田正俊暗殺1684＝ 御殿の下働きをしていた百姓の娘を母に、_紀州2代藩主徳川光貞の四男に生まれる。

奥の細道・・・1693＝ 9歳：

生類憐令頂点1695＝11歳：従五位下主税頭，
萩原勘定奉行1696＝12歳：従四位下左近衛権少将，
・・・・・・・1697＝13歳：越前国丹生郡3万石を与えられ、大名となる。

赤穂浪士討入1702＝18歳：

御蔭参流行・1705＝21歳：_兄が相次いで死去したため、紀州藩主を相続、吉宗と改名。
・・・・・・・1706＝22歳：伏見宮貞致親王の娘を正室に迎える。

_藩政改革に努め、儉約励行、土風振肅、財政健全化などの諸政策は、後の幕政改革の原型とみなしうる。
徳川綱吉没・1709＝25歳：

冥途の飛脚・1711＝27歳：

和漢三才図会1713＝29歳：講釈所を創立。

徳川吉宗将軍1716＝32歳：_*7代将軍家継の死去により、徳川宗家の血筋が絶え、老中らに推されて将軍となる。まず間部詮房、新井白石ら前代の側近を幕政の中核から退け、伝統的勢力を尊重する態度を示して幕府内の人心を統一し、諸方面からの政治刷新の期待を背景に、将軍の幕政主導権を確立し、
隅田川の桜・1717＝33歳：_元来好きだった花見を、民衆が楽しめるように、以後、次々と整備。大岡忠相を町奉行に抜擢、忠相は新たな民政を具体化する役割を担って行く。
洋書輸入解禁1720＝36歳：_実用的・実証的学問に興味を示し、とくにオランダ人を通じてヨーロッパの学術知識の吸収をはかるべく、漢訳洋書の輸入制限を緩和した。さらに庶民教育を通じて社会秩序の維持をはかり、
小石川薬園・1721＝37歳：教科書として「六諭衍義大意」を刊行させている。また、_*目安箱を設けて将軍への直訴まで制度化。
・・・・・・・1722＝38歳：_老中水野忠之を財政専任とし、本格的財政再建に着手。
近松没・・・1724＝40歳：桜餅が、1年間で40万個売れたという記録があるように、民衆も如何に楽しんでいただかが分かる。その他_花火や祭りなど、民衆の娯楽に腐心したことも特筆される。

徂徠没・・・1728＝44歳：_日光東照宮社参に出発する(将軍社参は65年ぶり)。

梅岩心学始・1729＝45歳：_かなりの成果をあげたが、その矛盾が不況、米価下落、農民の年貢減免要求などの形で表面化。

享保大飢饉・1732＝48歳：瀬戸内海沿岸を中心に大飢饉が発生。
・・・・・・・1733＝49歳：江戸ではじめて〃打毀〃が起こった。

悪鑄再開・・・1736＝52歳：_大岡忠相は、この年まで20年間、多くの逸話を遺して町奉行を辞めることになる一方、不況を緩和すべく、悪鑄(元文金銀)を増発して、
・・・・・・・1737＝53歳：_老中松平乗邑を財政専任に、神尾春央を勘定奉行に登用、その後しばらく安定した状態となった。
・・・・・・・1738＝54歳：

吉宗は司法制度にも関心をよせ、裁判の公正化・迅速化や残酷な刑罰の改廃をはかり、
公事方御定書1742＝58歳：_「公事方御定書」その他法典の編纂をはじめて公的に行わせた。
町奉行大岡忠相を通じて、防火、救貧、風俗取締り、物価統制など江戸の市政改革にも努めた。

徳川吉宗隠居1745＝61歳：中風で倒れ、身体や言語不自由になったこともあって、_*将軍を長子家重に譲るも、

義経千本桜・1747＝63歳：
リハビリによって回復し、_なお実権を握って、

徳川吉宗没・1751＝67歳：おそらく中風で_没した。